

しなののうた

道の辺の施設通れば「春がきた」の歌聞こえきて口遊み過ぐ

l.MI

杉田小百合

しなののうた

夢詰みて若きら集う花の下

わが青春の蘇りくる

杉田小百合



しなののうた

雪解けの水嵩の増す山峡に黄の耀える山吹の咲く



杉田小百合

しなののうた

朴の木の芳香漂う白花に引かれ寛ぎひと日の足るる

杉田小百合



しなののうた

園児らの追う鳩ひらり身をかわし駆け引き続き飽くなき続く

l.MI

杉田小百合